

季刊 ジャネット Ja-Net

No.23

2002年10月25日発行

View from the Other Side	3
あちこち日本語ご紹介 [鳥取県 鳥取市]	4
あちこち日本語ご紹介 [グルジア トビリシ]	5
教材紹介 『新日本語の中級 教師用指導書』	6
『絵でわかるかんたんかんじ160』	7
『こどものにほんご2』	7
なんでも情報BOX	8

Ja-NetはJapanese Networkの略です。[にほんご]を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

外国人へのこころの相談

東京英語いのちの電話理事長
N T T 関東病院精神神経科部長

秋山 剛



【相談】

人からの相談に乗るのはむずかしいものです。相談は困ったときにするものですから、相談相手は、不安だったり、怒っていたりしています。ときには、理由もないのに、誰かを疑っていることもあります。

自分の国には、家族、友人、恩師など、いろいろな相談相手があります。しかし、日本に来ると、このような人たちとの連絡が切れてしまうことがあります。連絡がついたとしても、「（見知らぬ日本で）ああ困った、こう困った」と相談されても、答えようがないでしょう。

外国人に日本語を教えていると、相談に乗ってほしいと、頼られることが多いのではないのでしょうか。「電車の乗り方が分からない」「どこに買い物に行けばよいか」などの相談であれば、アドバイスは簡単です。しかし、「どの医者に行けばよいか」「信頼できる弁護士はいないか」という相談になると、うかつには返事ができません。ましてや、「妻との仲がよくない」とか「ずっと気分が落ち込んでいる」という「こころの問題」になると、相談された方が途方に暮れてしまいます。

【東京英語いのちの電話】

東京英語いのちの電話（Tokyo English Life Line 以下、TELL）は、1973年に、日本にいる外国人のための電話相談機関として発足しました。電話相談は、匿名かつ無料なので、お金のない人でも気軽に相談できます。日本語の「いのちの電話」と同じように、電話相談は、80時間に及び初期訓練、月1回の継続指導を受けているボランティアが行っています。現在、電話相談部門では、100名にのぼる電話相談員が働いています。

TELLでは、1990年から、電話相談の他に、事務所での直接カウンセリングを受けたいというご希望にも応えられるよう

になりました。電話相談員は月2回、1回4時間のシフトを担当して活動していますから、同じ相談員に続けて相談したいと思っても困難です。また、相談相手の状況が深刻になると、直接会って話を聞くことが必要なのです。直接のカウンセリングは、英語圏でカウンセラーの資格を取得した専門家が担当していて、中には日本人のカウンセラーもいます。

TELLの活動の意義について説明する前に、回り道ですが、日本のメンタルヘルスの現状について説明させていただきます。

【日本のメンタルヘルスの現状】

ご存じないと思いますが、日本では、メンタルヘルス体制がとて未整備です。例えば、精神科医が患者さんに面接をします。医療保険から支払われるお金は、面接1回3,600円です（1回というところがいい加減で、5分でも30分でも1時間でも同じ値段なのです）。患者さんの自己負担は、このうちの2割が3割ですから、料金は高くありません。そのかわり、3,600円で30分相談に乗っているわけにはいかず、精神科医はみんな5分診療をして、薬の処方を決めているだけです。

では、相談の専門家である、カウンセラーや臨床心理士と呼ばれる方達はどうでしょうか？信じられないかもしれませんが、日本は先進国で唯一、カウンセラーが国家資格として認められていない国なのです（カウンセラーは、元々文部省と近かったために、保険診療を担当している厚生省とうまく話を調整できないらしいのです）。そのため、カウンセラーは保険診療の中で仕事をすることができません。カウンセリングは医療ではなく、費用は全部患者さんの自己負担になります。費用は、1時間で安くても7,000円、高いと2万円からそれ以上かかります。

つまり、日本では、日本人自身ですら十分なカウンセリングを受けられません。ましてや、言語が通じないうえに、ややこしい相談を持ち込んでくる外国人は精神医療では完全に敬遠されています。政府も、外国人のメンタルヘルスの問題は、知っていながら、見て見ぬ振りをしています。このようなわけで、外国人のメンタルヘルスは、民間の団体が担わざるを得ないのです。

【活動内容】

メンタルヘルス活動では、問題が起きないようにする「予防」と問題が起きた後に早く適切な対処をする「対応」の両方が大切です。

TELLでは、予防活動として、外国人のこころの問題に関するいろいろなワークショップを行っています。外国人自身や外国人を援助している人に（日本語の先生も含めて）、ワークショップで勉強してもらえば、外国人のメンタルな問題の発生を防ぐことができます。

電話相談は、問題が軽いうちから相談を受け付けています。ですから、「予防」と「早期対応」をかねた援助を提供しています。直接のカウンセリングでは、より深刻な相談に対応し、必要があれば、外国人の治療に協力してくれる日本人の精神科医への紹介も行います。TELLは外国人のための総合メンタルヘルスセンターという役割を担っているのです。

【相談内容】

相談内容は様々です。「何々という情報が分からない」という問い合わせもあります（日本にいる外国人は、現在でも、「情報不足」にとっても悩んでいるのです）。一方、こころの問題としては、「日本人が自分を受け容れてくれない」「孤独に悩んでいる」という対人関係の悩み、「何もやる気がしない」「いろいろな心配が頭を離れない」といううつや不安の問題、「ビザが切れたけれども日本にいる」「日本人の大家さんとトラブルになってしまった」「仕事がない」という生活上の問題、「どの医師が外国人を診療してくれるか」「AIDSにかかったかもしれないが、どこで、秘密を守った検査をしてくれるか」「妊娠したかもしれないが今は産めない」という医療や妊娠の問題、「以前からずっと麻薬を使っている」という薬物乱用の相談、そして、「つらいから、もう自殺してしまいたい」という自殺の訴えまで、シリアスな相談がたくさんあります。

【外国人への相談】

相談に乗るときの基本は、傾聴と共感です。傾聴とは、耳を傾けて相手の話を聴くこと、共感とは相手の気持ちや感情について、「今、何々と感じているのですか？」と投げかけることです。相談では、外国人ができるだけ、自分の力を使って問題解決できることが大切です。外国人が自分の力を使えるためには、相談相手の傾聴・共感が何より有効なのです。

また、外国人の相談に乗るのは、決して簡単なことではな

く、自分一人で対処するのは困難な場合があります。TELLなど、外国人のサポートネットワーク、外国人の自助的な組織について知識を十分に得ておいて、これらの機関と連携して活動することが重要です。ご自分一人でかかえてしまうと、外国人に頼られすぎて、非常に困った事態になることもあります。

【Ja-Netの読者へのお願い】

皆さんにお願いしたいことがあります。TELLのパンフレットを、同封させていただきました。ぜひ、皆さんのまわりにいる外国人に、TELLの活動について教えてあげてください。そして、「TELL友の会」に入っただけだと、とても嬉しいです。TELLの運営は、皆さんからの寄付で支えられています。「TELL友の会」の会員の方には、TELLが行うワークショップなどについてのお知らせを差し上げています。

皆さんにTELLのワークショップで学んでいただいて、これまでよりもいっそう、外国人と「こころの輪」がうまく築けるようになっていただければと願っています。

東京英語いのちの電話

TOKYO ENGLISH LIFE LINE (TELL)

東京英語いのちの電話（略称TELL）は、1973年急増する在日外国人の様々なニーズに対応する為に設立されました。社会福祉法人である「日本いのちの電話連盟」と連携し、非営利団体として活動を続け、無休の英語による無料電話相談を行って参りました。

また、1991年には、面接相談室を開設し、米国認定のセラピストが、親身な心のケアを行っております。

電話相談：03-5774-0992 面接室：03-3498-0231

TELL事務局

107-0062 東京都港区南青山5-4-22
TEL：03-3498-0261 FAX：03-3498-0272
TELL WEB SITE <http://www.tell.gol.com>



秋山剛（あきやまつよし）

東京英語いのちの電話理事長
N T T 関東病院精神神経科部長
多文化間精神医学会理事

在日外国人の精神衛生、産業精神医学、躁鬱病、多文化間精神医学などを専門とする。

研究文献

「異文化における適応過程の諸側面と精神科治療の臨床的問題について」
「異文化間精神医学の展望」など

VIEW FROM THE OTHER SIDE

神さまの思し召しがあれば...

アブドラー・アルモーメン・モハンマド



先日、私は日本のあるテレビ局の海外取材で、二週間くらいヨルダン、シリア、イラクの三カ国を回ってきた。仕事を終え、日本人スタッフと、日本へ向かう飛行機に乗ったときの興味深いできごとを是非皆さんにご紹介したい。

私が座った席はたまたま、一人の日本人スタッフと一人のアラブ人乗客の間に挟まれていた。そのとき、私は何も考えずに自分の席に着いたのだが、後でこれが思索の種になるとは思わなかった。いざ飛行機が離陸の準備を整え終えて、出発しようとした、そのとき、右側に座っているアラブ人の乗客が私に話しかけてきた。「in sha alla, el taiyara hatewsel el sa'a kam」(「この飛行機は神様の思し召しがあれば、何時に着くか、教えてください」)。私は即座にこう答えた。「神様の思し召しがあれば、朝の7時に着くと思う」と。それを見た隣に座っていた日本人のスタッフが、「何と聞かれたの?」と興味津々に私に聞いてきた。私は「いや、大したことじゃないよ、飛行機は何時に着くのかって聞かれたんだ」と答え、後になってふと思った。私たちアラブ人はインシャアッラという言葉をよく使うんだと。

中東のアラブ諸国では、インシャアッラという言葉が日常会話の中にふんだんに盛り込まれ、生活の基本がこの言葉ともうひとつ、アルハンムドレツラ(神様の思し召しのおかげで、の意)という言葉で成り立っているとと言っても過言ではない。

例えば、アラブ諸国二十カ国で町を走っているタクシーに乗り、運転手さんに、一定距離の目的地まで行ってくださいと言うと、おそらく、運転手さんがOKの代わりにこう答えるに違いない。「インシャアッラ」と。そして到着したら、「アルハンムドレツラ」と言うだろう。また、大学の同級生に、本や、テープとかを貸してくれないかと頼むと、百発百中、インシャアッラという言葉が返ってくる。また、そういう風に答えないと「インシャアッラと言いなさい」と相手にやさしく諭される。それを聞いた日本人は、内心「神様じゃなくて、君はどうなんだよ、やる気があるのか、ないのか、はっきりしろよ」と思うだろう。一方、アラブ人はインシャアッラを使うことで、「人間の能力には、限りがある。未来のことを唯一ご存じなのは神様だけなので、どんな些細な約束をする場合でも、アラブ人はインシャアッラと言うのだ。人間が己の分際をわきまえずに、力を過信することを戒めている」という意味を加えたいわけである。これは、極めて論理的かつ謙虚な精神であるといえるのではないだろうか。



以前、どこかの本で、こんなことを読んだことがある。言語というものは、普通、思想及び感情を表現し、伝達する集まりである。確かに、これは言語のもつ重要な役割の一つだが、言語にはもう一つの大事な役割があるはずだ。言語は既にできあがった思想を表現するのではなく、むしろ思想そのものを形成しているのが言語なのではないかと私は考える。アラビア語のインシャアッラという言葉が正にそれを証明してくれる。

また、インシャアッラという言葉が示すように、アラビア語の言語構造とアラブ人の思考様式は密接な関係にある。例えば、アラビア語の動詞組織において、第一義的に重要なのは、「時制」ではなく、「動作の行われ方」なのであり、動詞の時制と意味の関係は混沌としている。アラビア語の時制はいわゆるラテン系の言語とは違い、単なる副次的なものであるに過ぎない。もちろん、そのような言語構造の違いはアラブ人の考え方に大いに反映される日常の場面が多い。その表れのひとつが「インシャアッラ」という言葉の使い方にあるのではないかと私は考える。

つれづれに書いてみると、アラブ諸国が、とても難しい言語を使い、暮らしにくい国であるように聞こえてしまうかもしれないが、このインシャアッラという言葉で神任せでいい加減な返事ととらえることなく、皆さんも「そうですね、インシャアッラ」とこう答えられるようになれば、怖いもの無しだ。

飛行機が着陸し、さっそく時差を直すために、時計の針を戻し、スタッフのみんなに「無事に着いて、おつかれさまでした」と言うと同時に、私は心の中で「アルハンムドレツラ」と神様に祈った。

アブドラー・アルモーメン・モハンマド

1975年、エジプトの首都カイロ生まれ。ヘルワーン大学観光学部卒業後、来日。学習院大学文学部日本語日本文学科日本語教師養成課程に入学。学業と共に翻訳、通訳、テレビドキュメンタリーの仕事を多数こなす。今冬よりNHKラジオ「アラビア語講座」に出演予定。現在、学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻に在学中。

あちこち 日本語 ご紹介

国内編



鳥取県
鳥取市

鳥取県における日本語支援

(財)鳥取県国際交流財団
岩本 由美子

人口61.2万人、対する外国人登録者数は61カ国4370人。県民140人に1人が外国籍という計算になります。この数字が多いのか少ないのかはともかくとして、財団法人鳥取県国際交流財団が地域の国際化のための中核的な組織として1990年（平成2年）に設立された当時と比べると、日本語学習者、そしてそれを取り巻く環境も大きく変わってきたように感じます。外国人居住者は決して特別な存在ではなく、見渡せばそこかしこにいる身近な隣人という意識が芽生えてきました。市町村単位、民間レベルでも着実に交流が進んでいます。外国人の側に目を転じてみても、滞在の目的はさまざまですが積極的に日本社会に溶け込もうとする人が増え、日本人との交流の中で互いに学び合おうという意欲の旺盛な人が増えています。当財団にも「日本語を勉強したいのだが先生を紹介してもらえないか」という問い合わせが絶えることはありません。言葉が通じないばかりに地域社会のネットワークから疎外されてしまう可能性もあります。交流は心と心でという考え方もありますが、やはり言葉によるコミュニケーションが一方通行のままでは互いの理解にも限度があります。



(財)鳥取県国際交流財団 日本語クラスの風景

県内には日本語学校といったようなビジネススペースの学習機関がありません。約150人の留学生在籍している鳥取大学では平成13年に「留学生サポートオフィス」が開設され、正規の日本語の授業のほかに補講的に学習支援が行われる体制が整っています。そして、それ以外の日本語を学習したい人たちのために大きな役割を果たすのが日本語教育ボランティアの活躍です。県内におけるボランティアグループの草分け的な存在なのが「こそあどグループ」です。鳥取大学に留学している学生の家族の中には、家庭に残されて言葉も十分に通じないために孤独に陥っている人が少なくありませんでした。そのような状況を何とかしてあげたいという思いからスタートされたと聞いています。現在はそれ以外にも多くの外国人をサポートされて、日本語支援のほかにもお国の料理を紹介しあうパーティーや遠足といった楽しい行事を通じて学習者との交流を深めたり、月1回当財団のセンターを利用しての研修会など息の長い活動を地道に続けていらっしゃいます。

当財団でも独自にボランティア登録制度を運営して日本語支援を続けてきました。昨年度末で174名の学習者がボランティアの協力を得て勉強を続けています。ボランティア登録者の活動のきっかけはさまざまです。「外国でお世話になったお礼に何かお返しができるれば」「外国人の方との交流の手段として」「得意の外国語を活かしたい」など、日本語教育の専門的な知識を持っている人はむしろ少数派です。ボランティア活動をやっていくうちに日本語教授法という分野があることを始めて知る人も多いのです。私たちは皆さんに「とにかく始めてみま

しょう。ボランティアをやりながら共に学んでいきましょう」と呼びかけています。年に1回の研修講座のほかに初心者のためのミニ講座を開催するなどバックアップに努めるほか、各事務所にテキストや教授法の参考書・ビデオなどを揃え、一般図書とは別に長期間の貸出しもしています。遠隔地の方にも郵送等に対応するなどの利便にも配慮しています。今年度から急増している企業実務研修生等の学習ニーズに応えるため日曜日にクラス形式の日本語教室も開講していません。



お別れのティーパーティーで帰国を前に思い出の数々をスピーチ

普段何気なく使っている言葉が、外国人学習者と向かい合うことによって異文化交流のひとつの手だてとなります。それはおのずと世界に向けられる広い視野を求められますし、日本語の本質について考えさせられることも多く、決してたやすいことではありませんが、ある意味で自分を見つめ直す端緒にもなります。「帰国したり鳥取を離れても電話や手紙をくれる、生活体験が豊かであるいろいろな話が聞ける、同じアジア圏でも感覚的に近い点・遠い点など思いがけない発見がある」など自分なりにやりがいを見つけようとするのは、コーディネーターとして大きな喜びです。この輪を少しずつ広げながら、地域の要請に応じた支援に努めたいと思います。

あちこち日本語

ご紹介

海外編



グルジア
トビリシ

アーモンドの木の下で

トビリシアジア・アフリカ大学
メデア・ゴツィリゼ

グルジアは黒海に面した国です。北はロシア、南はトルコと接しています。古い昔よりシルクロードが通り、歴史上色々な国の影響を受けてきました。グルジア語が話されていて、丸い形のグルジア文字があります。ソ連時代にはソ連を構成する共和国の一つでしたが、1990年に独立しました。ソ連時代は外国との交流が制限されていましたが、独立後、人々は外国に興味を持って色々な言語や文化を勉強しはじめました。日本はグルジアから遠く、日本についての情報もグルジアにはほとんどないので、そのあまりなじみのない文化を少しでも理解しようと日本語を勉強する人々も出てきました。私もそのうちの一人でした。その頃からもう12年が経ちました。その間に、民族紛争や経済不況、エネルギー不足など色々な問題が起りましたが、それにもかかわらず日本語の学習者の数は増える一方です。現在、日本語はトビリシアジア・アフリカ大学と国立大学と二つの学校で教えられています。そのほか、日本政府の援助で2001年に開設された日本センターでも社会人が日本語を勉強しています。



3月、白い花が満開になるアーモンドの木の下で「さくら」の歌を歌います

また、グルジアでは空手と柔道の人気が高く、これらのスポーツをする人たちのなかにも日本語の学習者がいます。

私はトビリシアジア・アフリカ大学で日本語を勉強し、今は同大学で日本語を教えています。12年前に大学が創立されたときから日本語がずっと教えられています。最初は日本語の本も全くなく、ロシアの古い教科書を使っていました。最近では毎年、日本国際交流基金から本を送っていただいています。これまで5人の教師が北浦和の日本語国際センターで研修を受けました。

大学で調査を行い、学生たちにどうして日本語の勉強を始めたのかを質問しました。9割は日本が好き、日本文化が面白い、日本人の習慣に興味がある、文字が面白い、残りの1割はいい仕事につきたいから、両親や親類の勧めだったという答えが返ってきました。学生たちが特に興味を持っているのは日本人、その習慣、生活スタイル、伝統、庭園、住まい、神社、お寺、文学、芸術などです。

また、学生たちに日本語で何が一番難しいかと尋ねると、やはり漢字と敬語に苦労しているようです。逆に、一番簡単なのは何ですかという質問に5割の学生は一生懸命に勉強すれば何でも簡単だと答えました。残りの学生はひらがなや文法が簡単だという答えでした。学生たちはこれから日本の芸術、伝統、歴史、経済、習慣、宗教、文学、生



日本語を学ぶ学生たち：日本語学習を始める動機の9割が「日本が好き」「日本の文化・文字が面白い」「日本人の習慣に興味がある」ということです

花、料理、国際交流など、日本に関わるさまざまなことを勉強したいと考えているようです。

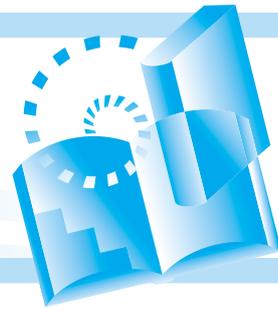
私は日本で研修を受けていたとき、帰国したらどの教科書を使おうかと考えていました。日本人や外国人の日本語の先生たちと相談して、初級では『みんなの日本語』を使うことに決めました。

教科書のほか授業では色々なパンフレットや雑誌を使ったり、日本のあちこちの写真を見せたりして単語を覚えさせています。秋は「もみじ」の歌を教えました。春先、グルジアではアーモンドの花が一番早く咲き出します。その時期には、学生たちを公園へ連れて行き、きれいな白いアーモンドの花を眺めながら花見について話したり、みんなで「さくら」を歌いました。季節にふさわしい歌を覚えることで、日本人の季節感も自然に理解できるようになると思います。日本センターでビデオを見せたり、日本独自の文化、書道、生花、詩、茶道などについて話したりすることもあります。

学生たちは日本に非常に大きな興味を持っているので、その興味を生かしながら日本語を教えていきたいです。

教材紹介

『新日本語の中級 教師用指導書』
『絵でわかるかんたんかんじ160』
『こどものにほんご2』



『新日本語の中級 教師用指導書』

今年の5月に日本語集中3週間コースを受けて、現在コンピュータ会社で研修中のインドの人にたまたま会うことがあった。カレは昨年、インドで日本語能力試験3級に合格していた。東アジアと事情は異なりインドでは3級は立派な資格である。日本企業に就職したカレは、今年4月にAOTSのオンライン日本語テスト『基礎』を受験し、合格ラインに達したため、この度の来日にいった。5月のコース中に『基礎』をほぼ修了し、6月から社内研修に入った後も一人コツコツと『新日本語の中級』テキストを自学自習していた。そして8月末にはオンラインテスト『中級』を受けて、9割近い成績を残している(この『中級』というのは準2級程度)。更にカレは12月1日に日本語能力試験の2級を受験したいと、9月からAOTSの東京研修センターで開設した週一回の夜間日本語クラスに応募してきた。研修先、下宿先から一時間半もかかるにもかかわらず、である。カレに「よく『中級』一人で勉強できたね」と聞くと、意外そうな表情...、「だって、ほとんど毎日会社で交わされている会話や文型が出てくるから、『基礎』より簡単だったよ」という返事。

なるほど、教室で学ぶのと違って語彙も表現文型も目の前で展開される状況や自分が置かれた文脈の中で学ぶのだから、意図的に機能や発話意図など提示せずともすむ理屈である。カレは高い自律学習能力の持ち主なので、乙武クンを障害者のロールモデルにしちゃいけないように、むしろ例外的な才能に恵まれた人と言っている。しかしカレの言うことはもっともだ。コトバは環境や状況の中に埋め込まれているし、社会的交渉の中からコトバが生まれてくるのは自然なことだ。と考えると教室というのはかなり特異な空間だ。にもかかわらず教室で学ばざるをえない状況があることを思いつつ、この『教師用指導書』を作成した。『教師用』というより『学習用』、『指導書』というより『素材集』『ネタ本』と言ったほうがふさわしい。

学習を担う人たち、当然、当事者である学習者に、そしてその伴走者である教師やボランティアに必要なところを利用して使ってもらえればと思う。そんなココロで作ったので、こうせえ、ああせえというモデルを提示するよりも、サンプルのつもりで色々なネタを盛り込んだ。簡単に各課の構成をご説明しよう。

(財)海外技術者研修協会(AOTS) 新規事業開発室 春原憲一郎

・ねらい:

このテキストは機能シラバスで作られているが、機能というのは実際どのような事柄をさすのか、ということを数行で述べた。

・提出項目:

各課の学習項目が本文のどこにあり、それは既に初級で習った事項とどのようにネットワークしているのかを表にした。

・授業の流れ:

学習目標をめざしてどのように学習活動を構成するか、の一例を示した。また会話本文の談話型をフローチャートで例示し、必要に応じて、社会文化的情報なども入れた。

・発展活動:

現場でこのテキストを使ってみて、例えばこんなことができた、こんなこともできたという課外活動も含めた活動例を紹介した。

・単語指導の工夫:

中級段階はボキャビル!初級で文法をいっぱい詰め込まれてアタマでっかちになっているカラダにボキャブラリーという栄養を入れてしっかりした足腰にすること。そのためのヒントとなるイラストや若干のコメントが付してある。

・学習項目の基礎知識:

特に類義表現との異同について、重要なポイントを紹介した。

通常、教師用指導書というと教師が教案を書く際のアンチョコのようなイメージがあるが、本書はむしろ学習者とともに眺めながら、学習活動を進める刺激剤としても活用していただければ幸いです。

●練習用イラスト



新日本語の中級 教師用指導書

B5判 190頁 2,000円
(財)海外技術者研修協会 編著



絵でわかる かんたんかんじ160

B 5 判 115頁 1,500円
武蔵野市帰国・外国人教育相談室
教材開発グループ 編著



こどものにほんご 2

B 5 判 300頁 2,000円
西原鈴子 監修
ひょうご日本語教師連絡会議
子どもの日本語研究会 著
(財)兵庫県国際交流協会 協力

11月発売予定

『絵でわかるかんたんかんじ160』

本書は、武蔵野市の公立小・中学校で学ぶ外国人・児童生徒に日本語を指導している日本語教師のグループが、日々の指導の中で生み出した漢字教材です。

来日したばかりの外国人児童（特に非漢字圏の子ども）にとって漢字の習得は、容易なものではありません。さらに、その後の教科につなぐ日本語学習を考える時、外国人児童に合う適切な漢字指導が重要なポイントになってきます。

そこで、外国人児童が漢字学習を効果的に積み上げていけるワークブックがあれば、限られた日本語指導の時間のなかでも、楽しく自然に漢字習得ができると考えました。

本書は、先に出版した『絵でわかるかんたんかんじ80』に続く漢字教材です。小学2年生の教育漢字160字を、絵を手助けとして、指導者には導きやすく、学習者にはわかりやすく、やる気がわいてくるように仕上げました。

1年生の漢字を終えた、2年生以上の、どの学年に編入した

武蔵野市帰国・外国人教育相談室 教材開発グループ 矢竹富美代

児童にも適しています。非漢字圏・漢字圏いずれの児童にとっても、それぞれの学習計画に合わせ、楽しく取り組める内容ですので、一日も早い教科への橋渡しに役立ちます。

本書は、33課で構成されています。各課で扱う新出漢字は、4文字から6文字としました。使用単語は、生活の中でよく使うもの・教科につながるものを選び、わかりやすく提示してあります。絵と漢字の点結び、やさしい読み物、なかま言葉、反対言葉など、問題に変化をつけてありますので、楽しみながら自然に定着させることができます。また、5～6課ごとに復習のページがありますので、フィードバックしながら、自信をもって次に進むことができます。

本書の使用に際しては、指導者の皆さまには、できるだけ子どもとの対話を心がけ、漢字学習の楽しさを共有していただけたらと思います。

『こどものにほんご 2』

ひょうご日本語教師連絡会議 子どもの日本語研究会 池上智恵子

私達の研究会は急増している外国人児童のために『こどものにほんご1』を作成しましたが、続編『こどものにほんご2』も11月に出版されることになりました。

『こどものにほんご1』では転校生のルイス・シルバ君が一学期の行事を通して学校の生活に慣れていく様子を描いていますが、『こどものにほんご2』では二学期と三学期の行事に沿って物語が展開します。運動会や音楽会等学校行事の外、七五三、節分、ひな祭り等の文化的行事も取り上げました。

学習項目は、依頼、義務、可能、意向、連体修飾、受身、使役、敬語等で、二冊合わせて基礎的な文法が学べるようになっています。

このテキストは基本的に構造シラバスに依っていますので、外国人児童の転入時期にかかわらず一冊目の初めから指導していただきたいと思います。

『こどものにほんご1』では一年生の漢字、『こどものにほんご2』では二年生の漢字を提出しました。漢字の指導については国籍や興味によって進め方を考慮する必要があります。

語彙表には英語、中国語、ポルトガル語の訳が付いていま

す。指導の参考にしていただくため「指導の手引き」も作成しました。

また、イラストを多用した外、漫画やクイズ等もあり、学習者にとっても指導者にとっても楽しいテキストになるよう工夫しています。

日本語の基礎を確実に身につけてもらうためには短期集中的に指導する必要があります。『こどものにほんご』も二冊合わせて四カ月以内に終了することが望ましいと考えています。

本書が児童の日本語指導に携わっておられる多くの方々にご利用いただければこの上ない喜びです。



なんでも情報

BOX



セミナー

SEMINARS



初心者のための『みんなの日本語初級』の教え方・東京会場

内容：『みんなの日本語初級』
『みんなの日本語初級』
中級の教え方講座

* は各計10時間 合計5時間

日時： 11月11日(月) 13:00~16:30
11月13日(水) 13:00~16:00
11月15日(金) 13:00~16:30
11月18日(月) 13:00~16:30
11月20日(水) 13:00~16:00
11月22日(金) 13:00~16:30
11月25日(月) 13:00~15:30
11月27日(水) 13:00~15:30

会場：アジア文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13)

講師：飯塚達雄(スリーエーネットワーク日本語講師)

定員：25名

費用：各15,000円 7,500円

『みんなの日本語初級』の教え方・大阪会場

『みんなの日本語初級』の教え方講座・大阪会場は2003年2~3月を予定しております。内容は26課~50課までを、全6回に分け、各回参加できる形式を予定しております。日程は土、日の午後を予定。詳細が決まり次第、講座案内を送付いたしますので、講座係までお問合せください。

日程：2003年2~3月の土、日の午後。全6回(予定)

講師：田中よね、牧野昭子他(予定)

会場：エル・おおさか(予定)

定員：20名(予定)

問合せ/申込み先：スリーエーネットワーク講座係

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル

TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197

E-mail:ja-net@3anet.co.jp

『新日本語の中級』福岡セミナー

日時：12月14日(土) 13:00~16:00

講師：春原憲一郎(〔財〕海外技術者研修協会)

内容：昨年に引き続き『新日本語の中級』セミナーを開催いたします。(内容は昨年と異なります)

会場：ももちパレス(福岡市)小ホール

TEL:092-851-4511

ほん

BOOKS

本誌に表示した価格は税別です。

みんなの日本語初級

翻訳・文法解説ドイツ語版 発売中 2,000円

新日本語の中級 教師用指導書 発売中 2,000円

完全マスター語彙 日本語能力試験1・2級レベル 発売中 1,100円

いっしょにほんご 発売中 32,000円

外国人児童に対し学校で即対応ができるように、日本語指導の研修を受けたことがない教師にも使える教材。A4判、白黒271枚の絵カードです。絵を用いることにより学習者を飽きさせることなく、繰り返し基本文型を提示し、練習させることが可能です。

絵でわかるかんたんかんじ160 発売中 1,500円

こどものほんご2 11月発売予定 2,000円

Basic Japanese for Students Hakase はかせ 留学生の日本語初級45時間

12月発売予定 2,200円

留学生が初級前期のサバイバル日本語を学ぶテキスト。知的興味を満足させる場面で、実践的な会話が学べる。文法項目は英語で簡潔にまとめ、表記は漢字かな交じり(ルビつき)とローマ字の併記。

留学生のための論理的な文章の書き方・改訂版

1月発売予定 予価：1,600円

交通：地下鉄・藤崎下車 徒歩3分

定員：140名(定員になり次第締め切ります)

参加費：九日連会員500円、一般1,000円(当日納入)

申込締切：11月30日(当日消印有効)

申込み：住所 氏名 電話番号 所属 区別(九日連会員か一般か)を明記の上、葉書(1枚1名記入)にてお申込み下さい。(電話、FAXでの申込みは不可、また当日の受け付けはいたしません)

問合せ/申込み先：進はじめ

〒811-3221福岡県宗像郡福岡町若木台1-5-11

(自宅) TEL&FAX:0940-42-6077

共催：九州日本語教育連絡協議会(九日連)

スリーエーネットワーク

丸善仙台アエル店主催：日本語講座のお知らせ

第2回日本語講座：『みんなの日本語』～メインテキストと周辺教材の効果的使用法へのヒント～

「学びやすい」「教えやすい」と定評の初級日本語テキスト『みんなの日本語』。国内のみならず海外でも広く採用されています。そこで、国内・海外での指導経験豊富な講師をお迎えし、効果的な教え方のヒントを周辺教材の紹介と併せてお話ししていただきます。

日時：11月30日(土) 14:00~15:30

会場：プラザ文化センター仙台

定員：60名(定員になり次第締め切ります)

講師：飯塚達雄(スリーエーネットワーク日本語講師)

費用：無料

申込み：住所、氏名、電話番号、所属を明記の上、

FAXまたはTELでお申込み下さい。

問合せ/申込み先：丸善仙台アエル店洋書売場 担当：瀬戸

TEL：022-264-0151 FAX:022-264-0112

主催：丸善

協力：スリーエーネットワーク

*丸善仙台アエル店主催：日本語講座は全6回予定しております。第3回目以降の予定は詳細が決まりましたら、お知らせする予定です。(第3回目は2003年1月下旬を予定)

お知らせ

INFORMATION



スリーエーネットワーク研修・教育事業のご案内

スリーエーネットワークは外国人に対する日本語研修をはじめ様々な研修・教育プログラムも開発しています。ご関心のある方は、お気軽にお問合せください。研修部案内書を送付いたします。

異文化理解・交流に関するプログラム開発と運営のお手伝い(学校教育・地域社会等)

講師手配、教材の作成、カリキュラムの策定の相談受け付け

インドネシアの日本語教育機関(国立大学・財団等)での実習・視察

問合せ：スリーエーネットワーク研修部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64田中ビル

TEL：03-3292-6193 FAX：03-3219-2890

E-mail：kenshu@3anet.co.jp

http://www.3anet.co.jp/kenshu/index.html

『みんなの日本語初級』準拠活動教材の募集

『みんなの日本語初級』の「活動教材」を、引き続き募集しております(2003年1月10日まで)。応募ご希望の方は、要項を送付しますので、Ja-Net編集部までお問合せください。

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を進呈いたします。また本誌をご希望の方は、お名前、ご住所、所属をFAX等で編集部までお知らせください。無料でお届けします(国内のみとさせていただきます)。『Ja-Net』第24号は1月25日発行予定です。

2002年10月25日発行

発行人 藤崎政子

発行所 (株)スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル

Ja-Net編集部 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197

営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195

http://www.3anet.co.jp E-mail: ja-net@3anet.co.jp

日本印刷(株)

© 2002 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)

Ja-Net 季刊ジャネット No.23

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

印刷